



真の国際化とは自分の国を知ること。
動物を擬人化し、躍動感溢れる作品に仕上げた
鳥獣人物戯画に日本人のユーモア精神を見た。

text by 渡辺幸裕・photographs by 新聞雅士

絵巻物という日本独自の芸術がある。紙を横につなぎ合わせ、情景や物語を連続的に表現する日本伝統の絵画形式の一つだ。一般的には絵とこれを説明する文章とがセットとなっており、終端には巻き軸がついていて収納する際にはこれを中心に紙を巻いていくと棒状にコンパクトに収められる。代表的なものに「源氏物語絵巻」「信貴山縁起」「伴大納言絵詞」「鳥獣人物戯画」があり、これらは日本四大絵巻と呼ばれている。その一つ「鳥獣人物戯画」の甲乙丙丁の全4巻が一堂に会する貴重な展覧会が東京のサントリー美術館で開かれている。同館学芸員の三戸信恵さんにお話を伺った。

鳥獣人物戯画に登場する兎や蛙といえば、教科書などで一度は目にしたことがある親しみやすいキャラクターである。滑稽で愛嬌のある、この絵は鳥羽僧正の作とも言われるが、作者不詳で実のところよく分かっていないことが多い。

まず他の絵巻物とは違い、この作品には

文字がなく、絵だけで構成されている。甲巻に登場する擬人化された兎や蛙は相撲を取ったり、踊ったり、走ったり、葬式というシリアスな場面なのにご本尊が蛙だったりと見ていて全く飽きないが、何を言わんとしているのか。また、絵巻物はなぜ葬式の場面で唐突に終わっているのか。

何より、授業中にノートに描いたいたずら書きのようなものが当時の支配層の庇護の下、製作され、大切に保管されてきた。このこと自体の目的が分からないのである。

モナリザに見るように西洋美術は完成度が高く隙のない作品が大半だが、日本美術は未完成の美、即興的なものに価値を見いだす、隙のある魅力が特徴だと言われている。鳥獣人物戯画はコミックやアニメーションの元祖とも言われており、日本人のユーモアセンスはこの頃から息づいていたことが分かり、非常に興味深い。

日本の絵巻物は、当時の暮らしぶりなどを垣間見ることができ、貴重な歴史資料でもある。こうした資料にじっくりと触れる時間を作るといっても日本探しの一つの方法となるのではないだろうか。

鳥獣人物戯画とは

鳥羽僧正が描いたといわれるが、実際の作者は不明である。甲乙丙丁の4巻からなり、全長11mほどの作品。甲巻は動物を擬人化したもの、乙巻は動物のままの生態を表したもの、丙巻からは人間も登場し、丁巻は絵柄が全体に漫画調で人間の風俗を滑稽に描いている。掲載した絵は動物が擬人化された最も有名な甲巻。



国宝(鳥獣人物戯画絵巻 甲巻) (部分)
平安時代(12世紀) 高山寺蔵



日本のユーモア溢れる戯画・風刺画

日本の絵画には、ユーモラスな風刺を盛り込んだ作品が鳥獣人物戯画以降にも多数見受けられる。その代表的な画家が歌川国芳だと言われている。

みかけハコハみがとんだい・人だ



江戸時代末期に活躍した、浮世絵師・歌川国芳の作品は、当時の社会や幕政を批判したユーモア溢れる戯画・風刺画で、大衆の圧倒的人気を集めた。動物では特に猫を主役とした作品が多い。

山口県立萩美術館・浦上記念館 所蔵(3点とも)

心学稚絵得 猫と鼠



浮世又平名画奇特



四大絵巻とは

平安時代末期から鎌倉時代が絵巻物の最盛期だと言われている。その中でも特に優れた作品群とされるのが「鳥獣人物戯画」「源氏物語絵巻」「信貴山縁起」「伴大納言絵詞」で、四大絵巻とされている。

鳥獣人物戯画



源氏物語絵巻

絵巻といっても、構成は一紙一場面になっている。平安時代の貴族の静かな世界を色彩豊かに描いており、絵の動きを楽しむというよりも一人ひとりの登場人物にじっくりと見入ることでその内面心理の描写にまでぐっと引き込まれる作品。現在は東京都の五島美術館と愛知県の徳川美術館に所蔵されている。



五島美術館 所蔵
2007年10月27日～12月2日 特別展「芦屋釜の名品」開催中

信貴山縁起

信貴山の命運という僧侶を主人公とした霊験譚。登場人物は表情豊かに描かれ、山水の表現にも優れている。絵巻全体の流れとしては、まるでクレーンで場面を眺めているかのような流れるような動きが高度な技術と評価されている。現在は朝護孫子寺が所蔵しており、原本は奈良国立博物館に寄託されている。

伴大納言絵詞

平安時代前期に起きた政治事件「応天門の変」での大納言伴善男の陰謀を描いた作品。応天門放火から真犯人逮捕までの事件の流れを時系列に沿って、サスペンス調にドラマチックに描いている。現在は東京都の出光美術館に所蔵されている。



Yukihiko Watanabe

ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機に日本文化超初心者会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

鳥獣人物戯画

Chōju-jinbutsu-Giga



お話を伺った人

三戸信恵さん
サントリー美術館
学芸員

サントリー美術館では、鳥獣人物戯画全巻を集めた展覧会「鳥獣戯画がやってきた!」を2007年11月3日～12月16日に開催している。鳥獣人物戯画を1カ所に集めた展覧会は初めてという。

<http://www.suntory.co.jp/sma/>

